

井口家資料について

いのぐち じゅんいちろう
井口 純一郎

生年 慶応 元年 1865

没年 昭和12年7月 1937

私塾師匠、郷土史家。慶応元年東高遠旧藩士の家に生まれ、諱を完純、号は精斎、俳号を桃の家、仙花、又 月の家、義山などという多くの号があった。幼少の頃から高遠藩の学者岡村菊叟・松原葆斎の二師について和漢の学を修め長じて長野師範学校（現 信州大学）に入学、教員として各地の学校に教鞭をとった。

多才、多芸で漢詩や文章も優れていたが、特に和歌、俳句は宗匠として地方の後進を誘掖した。また政治・弁論・武道なども郷党青年の指導者となっていた。教員を退いてから東高遠の私宅に家塾を開き、子弟の教育に当たったが、その博学と熱意を聞き伝え、郡内各地から教えを受けに集まった若人は、毎日6、70人に及んでいた。その間郷土史の研究に意を注ぎ、旧藩主内藤家の委嘱を受け、藩史編纂のため多くの資料を蒐集した。また、郡内各神社・寺院などの沿革を調査して、社格の昇格の資料を提出するなど郷土史の開拓につとめたが、昭和12年7月73歳で病没した。その翌年40年間にわたり教えを受けた多くの門人が、東高遠殿坂の大手門後に純一郎の頌徳碑を建てた。その氏名を見ると郡下各町村から東京・神戸・京都など広域にわたる130名が上がっている。

—高遠町誌 人物編より—

平成27年6月に寄贈された。

伊那市立高遠町図書館